

## 2022 ミドルレベル FD 研修

### 社会福祉学部社会福祉専攻 FD 研修実施報告書

群馬医療福祉大学 FD・SD委員会  
大久保

〈研修実施日時〉 令和4(2022)年 9月 8日(水) 8:50~10:20  
〈会 場〉 群馬医療福祉大学前橋キャンパス 1号館 4IJ 教室  
〈参加者〉  
・所属常勤教員 18名(全18名中)(出席率100%)

#### (1) 概要

本学の教育活動の柱の一つである「サービス・ラーニング」について、社会福祉専攻教員内で再度この意義を確認し、共通理解を深めることで、教育の質の向上を目指していく。

今年度は新しく入職された教員も多く、その意味でも本科目の教授法について検討することの意義は大きいと考えられた。

#### (2) 内容

前半：講義「サービス・ラーニングの意義と課題」

1. 地域連携センターの役割
2. ボランティア活動の種類

(1) 継続ボランティア・・・年間を通じて継続する  
ボランティア活動

(2) 依頼ボランティア・・・県内外の団体・施設等  
から依頼されたボランティア活動

(3) 学校行事ボランティア・・・行政や施設等から  
依頼される大規模行事のボランティア活動

(4) 地域・国際貢献ボランティア・・・国内の災害支援や国際的に必要とされるボランティア活動

3. ボランティア活動の原則

ボランティアの依頼受け付けに際しては、公益性、公共性が高く学生にとって有益な活動で、学生に対し教育



的配慮のできる団体・施設等に限っている。

#### 4. ボランティア活動時の「総合補償制度」

ボランティア活動時の事故に対応するため学生全員が加入。

#### 5. サービス・ラーニングの課題

1. 学生・大学とサービスの受け手側である、地域住民、福祉団体、NPO、行政などとの間でサービス・ラーニングに対する共通理解の形成が十分ではない。

2. サービス・ラーニングが受け入れ側に与える影響や効果測定について。



#### 後半：グループワーク

グループワークテーマ：「サービス・ラーニングの意義について、学内及び地域で共通認識を持つために、これからすべき具体的なアクションを考える」



医療技術学部 FD 研修実施報告書

群馬医療福祉大学 FD・SD委員会  
藤本, 大野, 石原

〈研修実施日時〉 令和4(2022)年 9月 8日(水) 10:00~12:00  
〈会場〉 群馬医療福祉大学前橋キャンパス 3号館311/312教室  
〈参加者〉  
・所属常勤教員 22名(全23名中)(出席率96%) (内Zoom参加1名)

(1) 概要

2022年度現在, 医療技術学部は学年進行中であるため, 2学年までしか学生が在籍していない。当然他学部と比較して, 国家試験対策といった観点での学生指導のノウハウが非常に少ない。そこで, 国家試験に向けた教育体制について, リハビリテーション学部の山口智晴教授にご講演いただいた。

参加者については, 医療技術学部の常勤教員1名が欠席(ワクチンの副反応による), 1名がZoom参加, 残りの教員は全員が対面で出席した。

山口教授にご講演いただいた内容は, 現在我々が抱えている問題に直結する事項が多く, 講演後に多くの質問が挙がっていたことから, 本学部教員にとって有意義な研修になっていたことが窺える。

(2) 内容

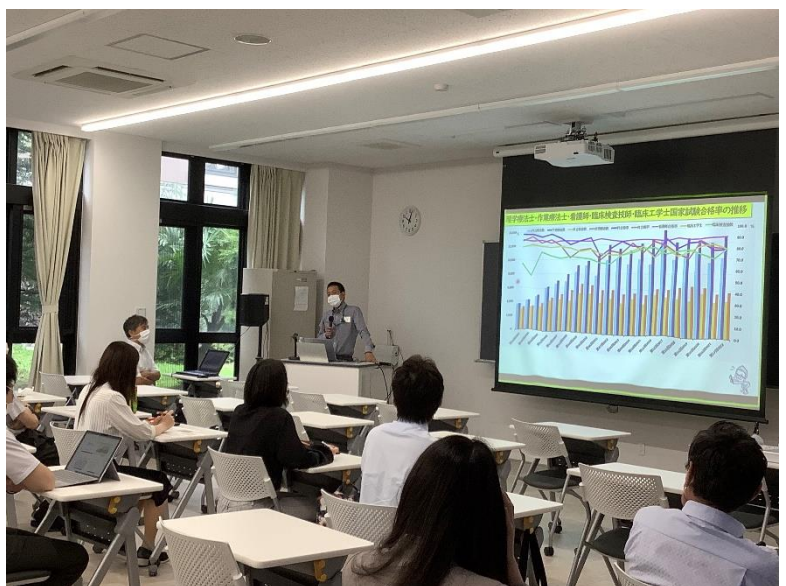
「国家試験対策を中心とした教育体制強化の取り組み」

・講師: 群馬医療福祉大学リハビリテーション学部 元国家試験対策委員長 山口智晴 教授

山口智晴教授をお招きして, リハビリテーション学部で行っている国家試験対策を含む教育体制についての研修が行われた。

1年次, 2年次のGPAと国家試験の点数には強い相関があることが示され, 低学年次から国家試験対策を行うのではなく, 基礎科目段階での学習支援に重点を置いているとの説明がなされた。リハビリテーション学部で実際に行っているグループ学習では, 共同学習を通して相手の意見を受け入れ, 自分の考えを修正する経験を積ませることで, 高学年次の国家試験対策につなげることができるとのことであった。講演後は, グループ学習についていけない学生や問題を起こす学生の対処など質問が30分間続いた。

本学部は学年進行中であり, あらゆることが試行錯誤の最中にある。今回の研修は, 質問が多数挙がったことにもわかるように, 参加者の多くが強い興味をもって臨んだことが窺える。リハビリテーション学部での体制を参考に, 医療技術学部の今後の教育体制に活かしていきたい。





# 令和4年度 看護学部 FD・SD 研修結果 報告

FD.SD 委員会

佐竹・巴山

1. 日時：9月8日（木）9時～11時30分
2. 場所：2204, 2205 教室
3. 対象者：看護学部教員、教務課
4. 参加者：教務課2名、教員24名（出席率 教務課100%、教員86%）
5. 内容：「ワールドカフェ」

テーマ「学生にわかりやすい授業をするための工夫」

## 6. 別添資料

- ① タイムスケジュール
- ② ワールドカフェについてのパワーポイント資料

## 7. 方法

ワールドカフェの形式に沿って以下の手順で行う。

- ① ラウンド1 テーブルに4～5人で座り、テーマを探究する。

「学生にわかりやすい授業をするための工夫」について、気づいたこと、発見したことなど自由に模造紙に書く。

- ② ラウンド2 アイデアを他花受粉する。

ホストをテーブルに残し旅人となって興味のある他のテーブルに移動する。ホストはラウンド1でどんな話があったのかを、そのテーブルに来てくれた人と共有し、新たなメンバーで話し合う。

- ④ ラウンド3：持ち帰って統合する。

最初のテーブルに戻り、ラウンド1、ラウンド2で得られた発見や気づきを共有し、話し合いを深める。

- ⑤ ハーベスト：参加者全員で共有する

## 8. 研修の様子

### ① ラウンド1

授業での工夫を最初のメンバーで話し合った。

ワールドカフェの方法に則り、他のメンバーの話に耳を傾け  
否定することなく対等な立場で意見を出し合い  
気づいたこと、発見したことなど模造紙に書き込んだ。



### ② ラウンド2 アイデアを他花受粉する

ホストをテーブルに残し、他のメンバーは旅人となって  
興味のある他のテーブルに移動した。

ホストはラウンド1でどんな話があったのかを、  
新たにそのテーブルに来てくれた人と共有し、



新たなメンバーで話し合った。旅人となった他のメンバーは最初のテーブルで話し合った内容を新しいテーブルに着いたメンバーに伝え他花受粉をした。

### ③ ラウンド3 持ち帰って統合する。

旅人となったメンバーは、最初のテーブルに戻り、ラウンド1、ラウンド2で得られた発見や気づきを伝えテーブルに残っていたホストはそのテーブルで話し合われた内容を旅人となっていたメンバーに伝え、共有し、話し合いを深めた。

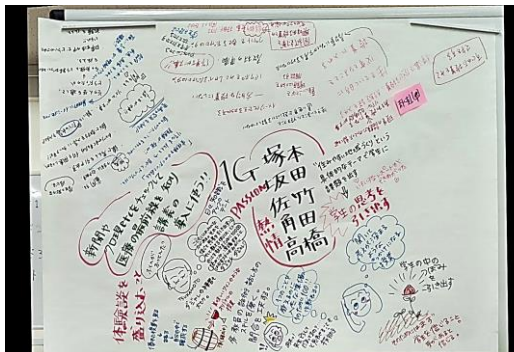


### ④ ハーベスト 参加者全員で共有した

ホストはそのテーブルで話し合われた内容を発表し、本日のテーマである「学生にわかりやすい授業をするための工夫」について、すべてのテーブルで出た気づきや発見、アイデアを参加者全員で共有した。

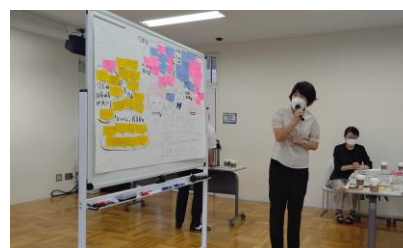
## 【1G】 発表者 坂田先生

授業の導入や話し方、新聞を活用し学生自身の生活のなかで起こっていること結び付けるなど様々なアイデアが発表され参加者全員で共有した。



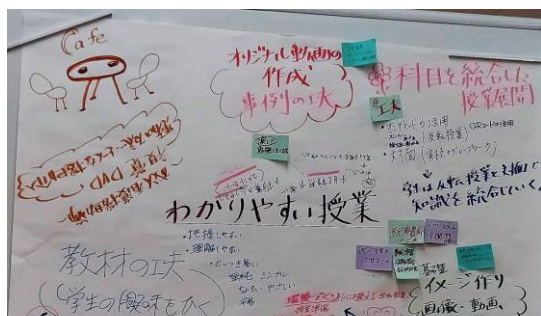
## 【2G】

授業ではリアルさを伝え実践力につなげるようにする、関心がむくよう動機付けを図ること、学生と教員の相互作用参加者全員で共有した。



### 【3G】発表者 佐藤充子先生

オリジナル動画の作成、事例や教材の工夫、  
反転授業での知識を統合させるなどの  
アイデアが発表され参加者全員で共有した。



### 4G】発表者 平出先生

学生の力を信じる、ほめる、自信をつける  
学生との信頼関係の構築、一方通行の授業を避ける  
生きた授業をするなどが発表され、参加者全員で  
共有した。

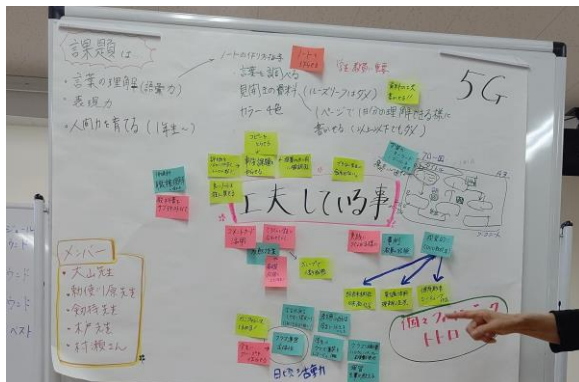


## 【5G】発表者 勅使河原先生

ノートの作り方を教える、事後課題の提示

コメントカードの活用、演習は先輩学生が教える

などの様々なアイデアが発表され、参加者全員で共有した。



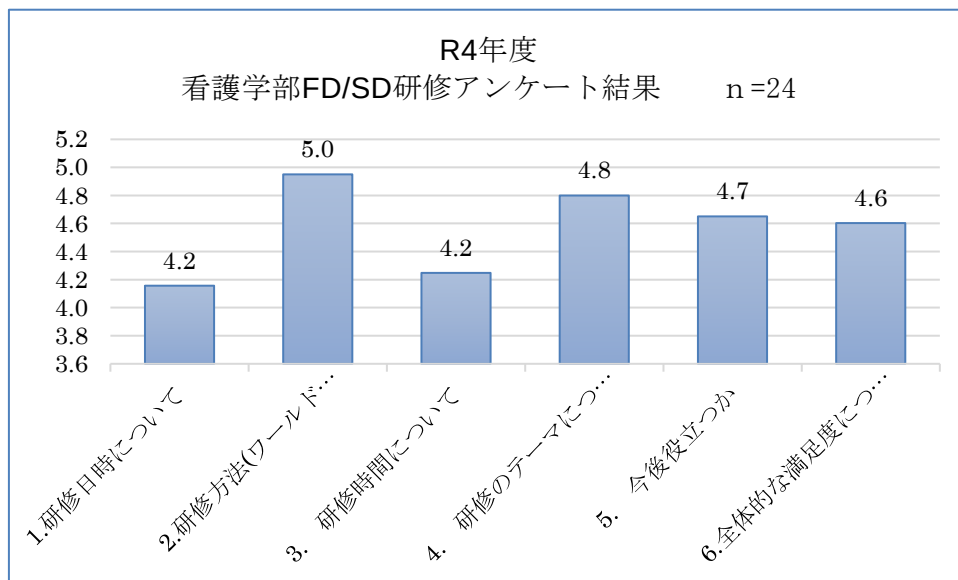
## 9. アンケート結果:24 名より回答 (FD.SD 委員 2 名除く) 回収率 100%

1) 質問項目: 1 点 (否定的) ~ 5 点 (肯定的) のうち適切な点数を 1 つ選択

- ① 研修日時について
- ② ワールドカフェという研修方法について
- ③ 研修時間について
- ④ 研修のテーマについて
- ⑤ 今回の研修は今後の教授活動に役立つか
- ⑥ 全体的な研修の満足度について
- ⑦ 今後、研修したいテーマがあればお書きください
- ⑧ その他、ご意見がありましたらご自由にお書きください。

## 2) 結果





・すべての項目の平均点は4点以上であった。ワールドカフェ方式での研修を開催することで、不安視する声も聞かれたが、今回の研修が今後の教授活動に役立つともに、満足度の高い研修となったことが示された。

### 3) 自由記述

#### (1) 今後研修したいテーマ

- ① 科研費獲得に向けた講習会
- ② 看護教育とICTについて理解
- ③ 授業資料 動画の作成方法とアップの仕方について
- ④ 国家試験対策、学力低迷学生へのアプローチなど
- ⑤ 欠席しがちな学生や意欲のわからない学生への指導方法

#### (2) その他のご意見

- ① 色々なお話を聞くことができ、とても貴重な時間でした
- ② 企画担当の先生お疲れ様でした
- ③ とても良い刺激になり、活用していきたいと思える研修でした
- ④ 時間も方法もよかったです。ありがとうございました
- ⑤ 看護以外のメンバー構成が良かったです
- ⑥ 昨今では教員間の懇親会もなかなかできない中、リラックスした雰囲気で見聞交換でき、感謝致します
- ⑦ 良い雰囲気で見聞を進めることができた
- ⑧ たまにはこういう雰囲気のグループワークも良いと思った
- ⑨ 多領域の先生方から幅広いご意見を伺えて、大変勉強になりました。また、カフェという環境も含めて、準備がとても大変だったと存じます
- ⑩ 実習と重なっている時期を避けて実施する工夫が必要だと感じました。可能ならばです
- ⑪ 素晴らしく盛り上がり楽しく創造的かつ充実した時間を過ごすことが出来ました。ご準備いただいた先生方にはほんとうに感謝申し上げます。今後も是非参加したいなと思いました。ありがとうございました
- ⑫ とても有意義で楽しい研修の企画をありがとうございました。今後の授業改善に生かしていきたいと思ひます



- ⑬ 時間がたっぷり取れる場合には、もっとたくさんのグループに出かけて意見を聞いてみたいと思いました。旅人という楽しいテーマがあるので、学生と行うときには、旅人になれる帽子など何かグッズを用意したいです♪気持ちも形も旅人になり切って、いろいろなところへ飛び回りながら新しいアイデアを集めていきたいです
- ⑭ コーヒーとお菓子は参加意欲につながると思いました
- ⑮ 話しやすい雰囲気を作るために、さまざまな準備をいただき、本当にありがとうございました
- ⑯ 会場をみて、1 人のマンパワーでは準備は大変だったと思いました。今後は会場準備など委員以外にも分担して決めておくの良いと思いました。委員がお二人ということなので、もっと気に留めお声がけすれば良かったです

## 10. 今後に向けて

- ・今年度は新カリによる 1 年生の実習が開始されたことにより、全員参加とはならず参加者が限定された。開催時期については次年度以降の課題である。
- ・結果として研修テーマも研修方法も参加された先生方のニーズと合致したと考えられる。このようなゆったりした研修もコロナ禍では必要ではないかと考えられた。
- ・今後の研修テーマは、研修したいテーマの自由記述をもとに吟味して選択していくことが望まれる。
- ・最後にご出席頂いた皆様の協力に感謝申し上げます。